

場づくり(・活動拠点・居場所)
地域の安心拠点づくり
多様な地域交流スペースの設置
と情報交換のしくみづくり

小規模エリアで
小学校区(人口1万人) 町内会単位
(人口2000~3000人)に設置
小規模多機能な場

場所がある
(できれば1階)
人がいる

- ・ひとつの団体だけでなく、横につながってひとつの「場」をつくる
- ・窓口がある。人がいる。疲れた人がほっとするところ
- ・まず拠点を誰もが行ける区役所につくって広げていくとよい
- ・一般相談は常設し、専門相談は曜日を決めて
- ・つらい人は身近なところには行きにくい人もいる。
- ・身近なところも、区役所も、その人の精神状態に応じた多様な場を
- ・場には人が必要。交代制にして皆で数時間交代に。
- ・より多くの人が少しづつかわり継続させること。
- ・担い手側の孤独を解消する

区民交流ラウンジをつくる
(顔の見える関係づくり)

- ・区全体をカバーするものと、連町単位、ケアプラ単位くらいのものをつくる。
- ・ケアプラザの職員などに頼るのではなく、この指とまれ方式にする

情報が得られる場をつくる

- ・あそこに行ったら「情報がわかる」というものをつくる
- ・身近な情報を提供する。
- ・自分からも情報を入れられ、情報を得られる場をつくる

活動の場づくり(ジュニア)

- ・責任をとってくれる人がいる
- ・子どもたちの意見が生かせる場、子どもたちが主体的に活動できるきっかけをつくる
- ・大人が計画しないで、子どもが企画する
- ・地域の伝統的な行事に子どもたちをまきこむ。
- ・ジュニアリーダーの活動の場を増やす

よろず相談場所

- ・引きこもり、精神に関する事も身近なよろず相談があるとよい
- ・各地区センター前の活用
- ・区役所の一角(1階、7階)の活用
- ・社協の5階でボランティアが集まっているので活用

地域の場 場バンクの開設

- ・今ある「場所」の情報を、行政、地域から集める。
- ・場所を提供してくれるボランティアを募る(空家、長期不在の家など)

地域活用資源の把握 地域の室の目録づくり
調査 リスト化 バンク化

- ・地域資源の一角に集う場を設置
- ・神社、寺などの集会所の活用
- ・会社、医院、コンビニなどの活用
- ・商店街の空き店舗の活用(商店街の宣伝にもなる)
- ・町内会館を有効利用する(まず喫茶スペースの設置)
- ・学校の空き教室の活用

健康・いきがい
(・健康であるために
・役割の発揮)

「食」による
それぞれの世代
の健康づくり

外に出向くケアプラ

- ・地域ケアプラザが地域のたまり場になるべきである。利用者がどんどん意見を出し合っ、信頼関係をつくっていく
- ・ケアプラザに来ないと相談できないのではなく、出前相談が必要。
- ・社協の小さな地域版がケアプラザになればよい。
- ・地域ケアプラザの運営協議会のメンバーに、地域の当事者も加える。

- 子どもの健康づくり**
- ・幼児検診の中で食習慣を直していく。指導していく。
 - ・子ども対象の行事に「食」をテーマにする企画を。一緒に作り、一緒に食べる料理づくりコミュニケーション

地域全体で
健康づくりに取り組む

心の健康を維持する

地域人材バンク制度
分類をしなくても何でも受け付けられる人材情報センターの立ち上げ
やる気のある人を活躍の場につなぐしくみ

地域の人材情報の受発信
できることを認めることが大事、気持ちや思いを受け止める役割

- ・子ども、子育て、高齢者など多世代交流
- ・ケアプラ、社協に情報を集める。1箇所に連絡すればわかる、登録情報が見えるようにする
- ・福祉メルマガ、メールの活用
- ・掲示板に「求む〇〇」とのせる
- ・地域の中で顔の見えるつながりの中で活動を、これを好まない人は区のスケールで活動を

当事者同士が
担い手になる

- ・当事者同士のカウンセリング
- ・当事者の会をつくる(子育ての悩みと、それをどう乗り越えたかを伝える)
- ・活動に力をかけて、そして元気になって、人材になって、役に立っているという自信を持って
- ・落ち込む前に情報をあげる 卒園式、卒業式でお母さんを活動に誘う

今後の担い手として
大事な人材の確保
誰も(子ども・障害者も含め)が担い手
裾野拡大

人材育成・発掘
(・ボランティア活動
・人材発掘・地域活動)

団塊世代の地域デビュー支援
団塊の世代の活用

- ・団塊の世代を対象に、社協がコーディネート育成講座を開催する。常に、いつ申し込んでもよい講座をつくる(いつでもOKの入口をつくる)
- ・団塊世代の登録リストをつくる(得意なスキルで登録)
- ・ニーズとサポートをつなぐコーディネーターが重要
- ・地域の一員として再発する団塊の新入者を甘やかさない(地域には地域の、会社とは別の運び方がある。)

男性参加
男女共同参画

中学生の地域での居場所づくり
きみたちは「助っ人」地域の一員

- ・子ども消防団の結成(子ども消防団、バイク救急隊、バイク便、青年見回り隊)
- ・若い力を発掘、育成する
- ・学校の授業で普段から話し合っておく(避難場所にもなっている)
- ・中学生の防災訓練への参加 高齢者とも交流 学校単位で訓練を

人
人材バンク
青少年、子育てママ、
高齢者、障害者
すべて人材

役割と居場所で
確かなつながりを
(自由で小さな
顔の見える場づくり)

職子の底力の発揮
(潜在力を顕在力に/
弱さと強さを力に)

場
場バンク
・身近にある
・気軽に集まれる
・触れ合える
・フリースペース

メニュー
メニューバンク
・地域の人が提供できる
・活躍の機会を提供する
・必要な人と提供できる人をつなぐ
仕組みをつくる

移動困難者に必要なこと

環境改善・向上
(・日常生活・マナー・道路・交通・
防災・防犯)

バリアフリー

防犯、防災マップをつくる

ゴミ出しのマナー

地域の猫
責任を持ってちゃんと育てる
会員制組織の賛同をひろめる

地域で話し合う
住民が提案できる
しくみをつくる

声なき声があげやすい関係づくり
(ニーズ顕在化相談・情報システム)

皆で担う
たくさんの人が担い手

- ・個人の善意で動くだけでは限界がある。地域で取り組んでいく。
- ・既にある組織をつなげる(NPO、ささえあい活動)
- ・これまで、行政・社協・社会福祉法人でやっていたことを、NPO・コミュニティビジネスにシフト。

訪ねる

お年寄りには「出張たまり場サービス」も必要

防災ネットワーク

- ・個人情報の扱い整理
- ・防災ネットワークを組織的につくる(自治会単位くらい)要支援者の誰がどこに住んでいるか近隣で知ること。知った上でちょっと話し合っておく機会をつくる
- ・地域に自らの情報を登録するような申請受付をする
- ・援助のポイントは、援助の必要な人と、その人を援助する人をセットで把握する事。
- ・ちいさな地域で、小さいコミュニティで助け合うつながり、助け合いのシステムをつくる。

つながり・ネットワーク
(情報)

地域連携・交流(・支える連携・地域との関係づくり・地域の交流)

情報受発信(・必要情報の受発信・情報のシステム化)

ボトムアップ
行政側では、気付いていない部分も多い。市民から

情報の伝達
情報の受信

- ・地域での情報センターをつくる
- ・人と人の信頼関係を築く人と人のつながりから
- ・面白いこと、楽しいこと、得ることがあると集まる
- ・情報は常に更新し、最新のものにする

福祉・保健・医療連携
在介役割・機能充実

相談
コーディネート

- ・声の小さい人々(出て来れない人)の声を聞く。どこでも相談できるように人を配置。
- ・地域の中の聞き手 専門家につなぐ前に地域でフォローする。
- ・お母さんの心を支える 1歳児以下のための母子支援
- ・ケーキを作って食べる楽しい時間。地域のつながりをつくるきっかけになる。

障害者
支援

- ・地域で果たせる具体的なメニューを提示
- ・公的な機関との役割分担 専門的な部分は公的な機関がやっていく
- ・障害のある方とのふれあう場をつくる

地域通貨のしかけをつくる。商店街や地域の活性化につながる。

地域通貨